



图书馆内收藏有与日语和日本相关的书籍约14000册和影像资料约1500份!

开馆时间

星期一至周五 11:00~18:00 一般会员证和教师会员证 30元
星期六 13:00~18:00 学生会会员证 10元



从2009年9月开始,读者可以借阅部分馆藏杂志(部分与日语教育相关以及不定期刊物除外)。欢迎大家来借阅!

部分杂志介绍

《オレンジページ》

由“オレンジページ”出版发行的生活类杂志。附有介绍食谱及美食制作方法的大幅图片,非常方便阅读。另外,读者的投稿也被收入其中。

《文学界》

由“文艺春秋”出版发行的文学艺术类杂志。是日本五大文学艺术杂志之一,属纯文学类杂志。每年颁发2次文学界新人奖。

《ひらがなタイムズ》

由“ヤック企画”出版发行的日英双语杂志。本书介绍了外国人在日本的生活以及与日本人日常交流的指南。某些日本国外的大学还将其作为日语教材使用。

除上述杂志以外,还有日文杂志18种、中文杂志11种。

北京日本学研究中心图书资料馆简介

北京日本学研究中心图书资料馆建立于1985年,文献采集经费主要由北京外国语大学和日本国际交流基金提供。本馆为研究图书馆,兼具一定的公共服务性;在保障本中心日本学教学及研究的文献需求的同时,积极向国内日本学教学和研究人员提供文献服务。

本馆以日文文献为基本馆藏,以硕士研究生及其以上知识水准人士为主要读者对象。现有日文图书14万册,日日期刊71种,另有内容与日本学相关的中文图书3万册,中文期刊93种,中日文报纸10余种。馆藏日文文献以日本社会科学、日本经济、日本文化、日本文学,日本语言、日本语言教育为收藏重点,其中的“日本学基础图书系列”尤以对日本学史料性典籍的全面收藏而见长。本馆还收藏一定数量的音像资料,开通了日本朝日新闻社“闻藏”网络数据库。

本馆采用日本的NALIS图书馆管理系统进行业务管理,并利用日本国立情报学研究所(NII)的NACSIS-CAT网络数据库的书目信息,实现了馆藏日文及中文文献的联机编目及联机检索功能。所有馆藏文献均以开架方式展示,方便读者利用,日文图书按《日本图书十进分类法》排列;本馆还与



日本主要大学图书馆通过NACSIS-III系统建立了中日之间的馆际互借业务;目前本馆已经成为国内日本学界最重要的文献基地之一。

读者对象

一. 可以办理借书证的读者:

1. 本中心教师及学生,
2. 北京外国语大学相关专业的教师和研究人员
3. 北京外国语大学日语专业硕士及博士研究生;
4. 北京地区从事日本学教学与研究的教师和研究人员;
5. 北京地区日本学专业博士研究生;
6. 北京日本人会会员。

二. 外地读者可凭证明日本学专业的有效证件(学生证或工作证)入馆阅览
请垂询本馆服务台了解详情。

开放时间

周一至周五: 8:30至22:00 周六至周日: 9:00至16:00
寒假及暑假: 9:00至16:00
(寒假及暑假各有十天闭馆整理,具体时间请届时查看本中心网页公告栏)。法定假日依法闭馆。

联系方式

图书资料馆电子信箱: ryts@bfsu.edu.cn
办公室电话: 010-88816580
服务台电话: 010-88810035转102
图书资料馆OPAC网址: 202.204.141.13
图书资料馆地址: 北京市海淀区西三环北路二号北京外国语大学东院内
邮政编码: 100089

てふてふ

J-POP in China 2009

日本研究: 倾听世界的声音

日语能力测试



J-POP in China 2009

11月7日J-POP in China 2009炫动北京, 当今日本炙手可热的HIP-HOP组合FUNKY MONKEY BABYS和演员兼歌手双栖明星加藤和树的到来, 为初冬的北京带来一股热浪风暴。更有披荆斩棘突破预赛关卡的15位卡拉OK选手, 展开决赛大比拼, 点燃J-POP盛会的狂欢火焰。

7日周六一早, 在疲于一周工作、学习的人们还在睡梦中时, 几位铁杆粉丝就开始在剧场外等候。随着时间的推移, 入口处的人群越来越大, 直到下午5点半正式开场时, 会场的大门几乎被冲破。就在这样狂热的气氛中, J-POP in China 2009徐徐拉开了帷幕。



中场休息后, 将本次音乐会引至沸点的时刻终于到了。通过05年饰演人气舞台剧《网球王子》中的“迹部景吾”而被众多中国粉丝疯狂追捧的加藤和树一登场, 就引来台下无数尖叫声。开场连续两首“MeraMera”和“Venom”曲毕, 加藤便用其可爱的中文向大家问候, 可见台下用功良久, 可最后还是从口袋里掏出事先准备好的纸条开始念。加藤部分最值得一提的部分, 当然要说他为本次中国之行特别准备的歌曲“老鼠爱大米”, 其精准的中文演唱一开始, 立刻震惊四座, 全场欢呼声沸腾。

了解FUNKY MONKEY BABYS的中国观众可能目前还比较有限, 但单看现场观众们的反应就知道他们的组合有多么劲爆了: FUNKY MONKEY BABYS部分开始后直到最后一曲, 全场全席站立观看, 并一直在和着节奏拍着双手, 挥舞着手臂, 欢腾着。自2006年正式出道以后, 曾获日本公信榜冠军单曲、专辑, 09年实现日本武道馆演唱会, 并预定参与今年



红白歌会的演出, 可谓人气节节高升, 势不可挡。作为他们的首次北京公演, 除畅销单曲“告白”等名曲外, 还发表了最新作品“Hero”。他们完美的和声、精湛有力的演绎和阳光向上的歌曲, 为全场观众带来一份与众不同的视听惊喜。组合成员DJ Chemical的中国红唐装造型更是吸足了观众的眼球。



卡拉OK大赛一等奖得主刘田(右)和颁奖嘉宾日本唱片协会石坂会长(左)

“非常感谢主办方举办了这次的音乐文化交流活动, 并给我们这些喜爱日本文化, 日本音乐的爱好者们提供了一个施展及表现自我的舞台。能够在这次的卡拉OK大赛中获得最终优胜我感觉非常激动, 老实说从最开始参加预赛时就没有想到能够站在决赛的舞台上, 因为我觉得各个参赛选手都很有实力, 决赛当天大家的演唱也都非常出色, 可以说是不相上下, 能在激烈的角逐当中取得最后的胜利觉得非常兴奋也很幸运。我要感谢台下支持我并给我加油的朋友, 使我有取胜的信心和能量。希望借此契机, 今后每年都能够举办这样的音乐交流活动, 从中加深及增进中日文化, 音乐交流。”(刘田获奖感言)

J-POP in China 2009
J-POP in China 2009就这样在紧张而又精彩不断的一天落下了帷幕。不论你是热爱J-POP的坚定歌迷, 还是单纯喜爱音乐、文化的热心观众, 希望本次的音乐会能够成为大家生活中的一个快乐音符, 谱写明天幸福的乐章。

(编者按: 今年10月12日至14日, 我们日本国际交流基金会在日本箱根举办了[世界日本研究者论坛2009], 中国的北京日本学研究中心徐一平主任, 南开大学世界近现代史研究中心杨栋梁主任参加了此次会议。会议详情请登陆<http://www.jpfi.go.jp/j/intel/report/15.html>)

通过日语教育培养日本文化的理解者、日本问题的研究者: 我们任重而道远

北京日本学研究中心主任 徐一平

今年是日本前首相大平正芳先生以日本首相身份访华30周年。1979年12月, 大平首相访问中国, 代表日本政府与中国政府签订了《文化交流协定》。不仅如此, 大平先生在华期间, 会见了中国改革开放的总设计师邓小平先生。大平会见小平这一历史事件给中日两国关系留下了浓重的一笔。首先, 大平先生向邓小平先生询问中国改革开放的“生活小康”的目标是什么, 从而催生了GDP翻两番的总体目标; 大平先生访华以后, 日本开始对中国的ODA援助; 大平先生还成为第一位在中国进行演讲的日本首相。

据刘德有先生在前不久北京日本学中心举行的“大平正芳与中日关系”国际学术研讨会上所作基调报告回忆, 1979年12月7日大平先生在政协礼堂演讲时说道: “建立两国关系中最重要就是两国人民之间的信赖关系。而这种信赖关系的基础就是两国人民的相互理解。…毋庸讳言, 能够促进两国人民相互理解的最重要手段就是语言。…我衷心希望中国的日语学习者能够通过学习日语加深对日本社会和日本文化的理解。只有我们双方通过努力都加深了对对方的理解, 才能够进一步加强中日两国的关系, 从而对亚洲的稳定乃至世界的和平贡献我们的力量。这是肩负在中日两国人民身上的巨大历史任务。”

众所周知, 中国的日语教育自新中国成立以来就已经开展, 除在文化大革命中受到挫折以外, 中国的日语学习人数一直呈现着一种上升的趋势。截止到2006年, 中国的日语学习人数已接近69万人, 居世界第二位。其中更重要的特点是, 在中国日语学习者中, 在高校学习的人数接近60%, 达

到41万人, 居世界第一位。这样高层次学习日语的队伍, 为进一步培养以研究日本为目的的专门人才, 提供了大量的后备力量和生力军。从50年代一直到70年代, 我国的日语教育人才培养的更多目的, 是为国家的外事工作培养人才。在我们的第一代人才培养当中, 产生了像唐家璇、刘德有、王效贤等一大批从事外事工作翻译走上外事领导工作的人才。而从80年代起, 特别是“大平班”、北京日本学研究中心事业在中国产生影响以后, 使我国日语教育事业的培养, 除继续为国家培养外事工作人才以外, 进而产生了为我国的日本研究事业培养优秀人才的新的培养目标。在这第二代人才当中, 除了继续有如第一代人才那样的外交人才, 如武大伟、王毅以外, 新培养出了一批优秀的日本研究学者。如在日本政治研究领域里的李薇、国际关系研究领域里的刘江永、日本文化研究领域里的王勇、日本经济研究领域里的张季风、日本文学研究领域里的张龙妹等等。有些还在大学走上了领导岗位, 如天津外国语学院校长修刚、上海外国语大学副校长谭晶华、辽宁师范大学副校长曲维、广州外语外贸大学副校长顾也力等。目前在全国各地从事日语教育的教师队伍达到了12000人, 是“大平班”时代的20倍。

今年10月, 日本国际交流基金会在日本箱根举行了“世界日本研究者论坛”, 来自亚洲、欧洲、美洲、大洋洲等十几个国家的日本研究学者分别介绍了各自国家和地区的日本研究现状, 并对今后世界日本研究发展的趋势和任务进行了探讨。其中的一个重要趋势就是, 不同于前一代的日本研究学者, 能够用日语或通过日语来直接研究日本的研究学者越来



越多, 而且这一代研究学者逐渐成为主力, 发挥出越来越重要的作用。这是多年来在世界各地开展日语教育的重要成果, 也是世界全球化、信息化的一个必然结果。因为, 任何一个对象国的研究, 如果不能通过该国家语言进行研究, 那终究会给人一种隔靴搔痒的感觉, 而且也很难做到“等身大”地去了解该国和研究该国。只有通过日语学习者当中不断地去培养日本社会和文化的理解者, 培养日本问题的研究者, 才能推动我国的日本研究不断地深化。同时这样培养出来的研究学者, 还可以促进中日两国各研究领域学者之间的不断交流, 真正起到文化知识交流桥梁、纽带的作用。

这里我想到了温家宝总理说过的一句话, 中国的问题, 用我们的人口一乘, 再小也是大问题; 中国的成就, 用我们的人口一除, 再大也是小成就。按照中国这样一个人口大国, 又是在亚洲处于与日本相邻的这样一个国家, 要想真正实现中日两国人民世代友好相处的目标, 我国日语教育的任务以及培养日本文化理解者和日本问题研究者的任务, 还依旧是任重而道远。

日本研究: 倾听世界的声音

南开大学世界近代史研究中心主任 杨栋梁

金秋十月是收获的季节。2009年10月12至15日, 我有幸应邀出席了日本国际交流基金主办的“世界日本研究者论坛2009”, 印象深刻, 获益匪浅。

论坛第一阶段在风景如画的箱根进行。来自中国、美国、德国、法国、意大利、加拿大、澳大利亚、韩国、泰国、印度、埃及等11个国家的16位学者齐聚一堂, 分别围绕国别与区域日本研究的现状、区域研究与日本研究、亚洲研究与日本研究、日语教育与日本研究、未来的课题等5方面的问题发表报告并进行讨论。第二阶段移师东京并举行公开论坛, 世界日本研究学者与市民的对话将论坛的热烈气氛推向了高峰。

承蒙主办方安排, 我在箱根论坛上做了“10年来中国日本研究的新动态”报告, 在东京公开论坛上以中国、美国和欧盟的日本研究为例, 发表了“世界国别与区域日本研究的现状”演讲。

对我来说, 与如此众多的各国学者面对面地交流和讨论尚属首次, 我对他们所关注的日本问题及其研究视角、研究的手段和方法、组织运营方式等

抱有浓厚兴趣, 其许多做法值得借鉴和思考。相对来说, 欧洲的日本研究注重学术性, 人文研究占有相当比重, 从而形成了一个较好的研究者潜心研究的环境, 而包括中国在内的亚洲国家及地区的日本研究, 虽然也出现了不少“学理性”研究的成果, 但总体上还无法根本摆脱“功利性”研究的影响。

世纪之交中国和印度的崛起吸引了世人的眼球, 世界各国加大对中印两国研究的力度得到了与会者的确认。对于这一新现象将对日本研究产生何种影响, 与会者的看法未必一致, 而简单地给出负面或正面影响的结论终究都是难以成立的。不过由此得到的一个重要启示是, 今后的研究应该不断扩大视野, 从“亚洲和世界中的日本”以及“面对亚洲和世界的日本”等广域的视角出发来认识、理解和把握日本。从这个意义上说, 日本研究者必须不断扩大眼界, 更新知识, 发现并研究新问题, 提出新见解, 实可谓任重而道远。

此次论坛搭建了世界各国日本研究同行开展学术交流和信息沟通的平台, 对于促进各国日本研究

的横向交流与合作具有积极意义。倾听世界对日本的想法和评论, 不仅为“研究客体”的日本所必要, 亦为“研究主体”的世界各国日本研究者所必须, 无论是日本研究的主体还是客体, 只有打破“坐井观天”才会有更大的发展和前途。在此谨向长期以来支持各国日本研究事业并主办此次论坛的日本国际交流基金会表示由衷的谢意。



中国人日本語初心者が間違いやすい日本語について 終助詞「よ」

国際交流基金北京日本文化センター
日本語教育アドバイザー
王崇梁

今回は初級の文法項目としてよく扱われる終助詞の「よ」について、一緒に考えてみたいと思います。

日本語学習者から、「自然な日本語の会話を習いたい」という言葉をよく耳にします。一体、自然な会話とはどんな会話でしょう。まず、考えられるのは語彙や格助詞や係り助詞が適切で、アクセントやイントネーションも正しいこと。それに、日本語らしい言い回しやあいづちが適切であること。しかし、それだけではありません。相手との会話をスムーズに進めるには終助詞も非常に重要な役割を果たしていると思われる。

しかし、これまでは、「が」「を」「に」「で」のような文中で他の語とどんな関係にあるかを示す格助詞に関する研究や教育を重要視する傾向がありましたが、近年、中国も外国語教育政策がコミュニケーション力重視に変わり、「よ」「ね」のような聞き手との関係に関わる終助詞も次第に重要視してきました。

終助詞は格助詞と違い、主に発話者の心情や態度を表すため、日本語が流暢な人ほど、終助詞の誤用によって、日本語母語話者との間で誤解が生じやすく、相手に不快感を与える可能性が大きいと言えます。

日本には「ゼンジー北京」という有名な手品師がいます。ショーの始めはいわゆる中国人の日本語のしゃべり方を真似する、定番の「中国は広島生まれ。タネ、仕掛け、チョトあるよ」の台詞を話します。この台詞は助詞や促音が欠けており、文末に「あるよ」をつけるのが特徴です。現実には、ゼンジー北京さんのようなしゃべり方をしている中国人はほとんどいません。しかし、次の例のような終助詞の「よ」を間違えて使う人は少なくありません。

例：

1. 店長：李明さん、面接に来ていただきたいんですが、来週の火曜日に来られますか。
(想让你来面试，下星期二能来吗?)
李明：いいですよ。(好的。)
2. 先生：名前は何ですか。
李明：李明ですよ。

3. 李明：これは北京の名物、おいしい。食べてみて。
田中：じゃ、いただきます。

例1、2は「よ」が使われていますが、例3は「よ」が使われていません。いずれも不適切、或いはあまり自然ではない日本語ですが、それはなぜでしょう。その理由を考える前に、まず、「よ」の主な使い方を確認してみましょう。
(ここでは『明鏡国語辞書』の一部を引用した。)

- 1) 接続方 文末につける。
- 2) 意味

- ①《文末について》親しみをこめて、断定・念押し・命令・勧誘などの気持ちを伝えるのに使う。
(1) そんなことないよ。(断定)
(1)' 绝不会有那种事的!
(2) 明日きっと来るんだよ。(念押し)
(2)' 明天可一定来呀。
(3) 早くしろよ。(命令)
(3)' 快干呀。
(4) 疲れたなあ、少し休もうよ。(勧誘)
(4)' 累啦，稍歇一会儿吧。
- ②疑問の語や質問の文について、質問・反問に詰問・反駁の意味を添える。
(5) こんなことをしたのは誰だよ。
(5)' 这种事是谁做的。
(6) そんなこと言えた義理かよ。
(6)' 他有什么资格说那种话吗?

以上の「よ」の主な使い方から、「よ」一つだけで、いろいろな気持ちが表せることを確認できました。さらに、(1)'～(6)'の中国語の訳例を見ても分かるように、「よ」が中国語の語気詞「呀、吧、啦、的」に訳されたり、訳されなかったりするので、習得にもある程度難しさをもたらすと思われる。

では、「よ」の主な意味と使い方を確認したところで、例1～3の文がなぜ不適切かあるいは不自然かを検討しましょう。

例1の「いいですよ」という答えは母語である中国語の「好的」をそのまま日本語に訳したと考えられます。しかし、アルバイト先の店長に終助詞「よ」を使って答えてしまうと、生意気で偉そうに話しているように聞こえるので、不適切な使い方だと思われる。この場合、自然

な日本語としては「はい、分かりました」のほうがいいでしょう。

例2の「李明ですよ」の「よ」を付け加えたことで、先生の質問に不満を持って答えているように受けとれやすいため、「よ」を使わず「李明です」のほうが自然でしょう。

例3の「おいしい」は間違いではありませんが、少し不自然さを感じます。もし、「おいしいよ」と「よ」を使えば、話し手がよく知っている情報を相手に伝達すると同時に、親しみの気持ちをこめた自然な話になるでしょう。

最後に、実際に教えるときに注意すべき点について考えましょう。

- I. 「よ」の基本的な機能は聞き手の知らないことに注意を促すことです。次の①②のような場合、「よ」がよく使われます。
①もしもし、ハンカチを落としましたよ。
②A: 授業は8時半からですね。
B: いいえ、8時からですよ。
しかし、先生や目上の人に使うと失礼になる危険性があるので、避けたほうが無難でしょう。
- II. 「よ」は命令や依頼を表す場合、イントネーションが上昇か下降によって意味が違ってくるので、気をつけましょう。
③(あまり勉強しない学生に)しっかり勉強しろよ。(イントネーション下降: 相手の行為をとがめる気持ちを表す。)
④(出発する前に)気をつけて運転してよ。(イントネーション上昇: 親しみの気持ちを表す。)
- III. 「…だよ」「…かよ」は主に男性が使いますが、「…わよ」「…てよ」「…のよ」は主に女性が使います。とくに「…かよ」は、相手を非難する意を表すので実際の発話の中で使うには、細心の注意が必要だと言えるでしょう。

参考・引用文献

松岡弘監修(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

北原保雄編(2005)『明鏡国語辞典』大修館書店
柴原智代(2002)「『ね』の習得」日本語国際センター紀要第12号

新しい「日本語能力試験」聴解の新しい問題形式について

北京日本文化センター日本語教育専門家
佐藤修

日本語教師のみなさん、こんにちは！

2009年12月6日に2009年度第2回日本語能力試験が行われました。次回2010年7月からは新しい日本語能力試験になります。新試験については公式サイトwww.jlpt.jpでガイドブックと問題例集が公開されていますのでご覧ください。

新しい「日本語能力試験」ガイドブックと問題例集
<http://www.jlpt.jp/j/about/new-jlpt.html>

さて、新しい日本語能力試験では聴解の比重が増します。聴解の得点配分は、従来の試験では4分の1(400点満点中の100点)でしたが、次回からは3分の1(180点満点中の60点)になります。

「聴解が一番苦手！」という方は多いので、どう対策を進めていけば良いか不安を感じている先生方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。そこでこの欄では、聴解試験での新しい形式「即時応答」問題について解説したいと思います。

まず、下の問題例をご覧ください。

レポートを書きました。先生に日本語を直してもらいたいです。何と言いますか。

1. あ、日本語を直してもよろしいでしょうか。
2. あ、日本語を直していただきませんか。
3. あ、日本語を直したいですか。

→答え：2(問題例集 N3 聴解 問題4 1番より)

質問などの短い発話と、その発話に対する三つの返答(選択肢)が音声で提示されるので、最初の人の発話に対して何と答えたいか、最も適切な返答を選びます。相手の発話にどのように応答するのがふさわしいかを即時に判断できるかどうかを問う問題です。

指導のポイントは、「問題部分を聞いたあと、選択肢を聞く前に自分で答えを予測させる」ことです。試験対策用問題集を使う場合はCD等の再生を一時停止して、生徒たちに状況を把握したり答えを予測したりできる時間を作しましょう。さらにその過程を助けるために、「いつ、どこですか？誰が誰に話していますか？」「話している人はどんな気持ちですか？」などと聞いたり、同じような意味で違う言い方に言い換えさ

実施予定	実施予定
第28回 2010年7月初旬	N1、N2、N3
第29回 2010年12月初旬	N1、N2、N3、N4、N5 (全レベル)



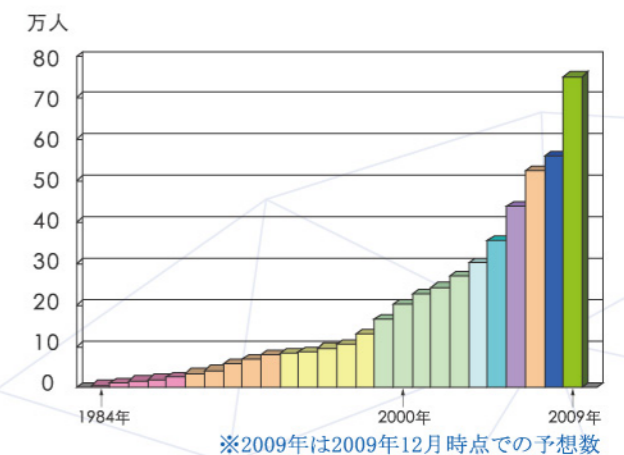
せたりすると良いと思います。日本語で難しければ、中国語で場面や状況を説明させるのも良いでしょう。

例えば、問題例集N2問題4の1番「あれ、佐藤さんって、今日、お休みだったっけ？」の場合、最初の発話部分を聞いたところで一時停止して少し待ち、生徒たちに自分で答えを予測してもらいます。ポイントは「っけ」ですね。はっきりしないことを確認するために使う表現です。状況を理解する手伝いをするために「佐藤さんは今いますか？」「話している人は、どんな気持ちですか？」などと質問します。最終的に、「佐藤さんは今いない。話している人は、佐藤さんは今日来ているはずなのに今いないので、なぜいないのか不思議に思っている」ということがわかるようになります。難しければ中国語を使っても良いでしょう。

もちろん、必ずしも予測した答えと同じ選択肢が出てくるとは限りません。むしろ違う答えの選択肢しかない場合も多いでしょう。しかし、自分で答えを予測しようとすれば質問がどんな状況で言われているのかを想像しなければならないので、違う答えにも対処しやすくなるはずですよ。

「即時応答」問題では、実際に対面で会話している状況が思い浮かぶと思います。現実のコミュニケーションに近付けた問題形式になっています。試験勉強がそのまま、コミュニケーション能力を育てることにつながります。生徒さんの試験対策の際には、たくさん練習してあげてください。

日本語能力試験受験者の推移



- 日本国际交流基金会主办
- 日本国际交流基金会资助
- 其它

AUGUST

8月

08.03~10.30/ 第二届JF原创風呂敷(包袱皮)设计大赛



08.08/ 風呂敷(包袱皮)兴趣工作坊(北京)

08.11/ Talking about Murakami(北京)



08.14/ 讲座“亚洲摄影与影像档案的发展与现状”(北京)



08.15/ 暑期儿童动画展(北京)



08.21~08.23/ 中日韩朝语言文化比较研究国际研讨会(延边)

08.25~08.31/ 第三届中国高校教师“日本历史文化”高级讲习班(郑州)



09.01/ 心连心 第四批中国高中生访日



09.06/ 吉林地区日语作文比赛(吉林)

09.09~09.10/ 面向世界的中日关系国际论坛(武汉)

09.11/ 藤井省三教授讲座(北京)



09.13~11.13/ “光·呼吸”佐藤时启摄影作品展(北京)

9.16~17/ 第四届SGRA中国论坛“TABLE FOR TWO—面对世界性课题、当代青年的可能性”(北京)

09.19/ 讲座“现代流行用语在日本动漫中的传播”

9.14~15/ “全球化时代东亚的制度变革”国际学术研讨会(天津)

9.18~21/ “东亚文化交流：争鸣与共识”研讨会(杭州)



9.20~21/ “关于现代社会的科技交流与运营体系的比较研究”国际研讨会(北京)

9.23/ “关于现代社会的科技交流与运营体系的比较研究”国际研讨会(北京)

9.27~30/ 贵州大学第五届日本文化节日本文化讲座(贵阳)

9.30~11.20/ 2009年中国大学日语教师访日研修



OCTOBER 10月

10.07~17/ “中国大学生访日研修(秋季)”

10.12~15/ 世界日本研究者论坛(箱根)

10.17~18/ 「認知言語学の拓く日本語・日本語教育の研究と展望」国际研讨会(北京)

10.22~25/ 《日语学习与研究》创刊30周年纪念/日本文化研究国际研讨会(北京)

10.25/ 机器人工作坊(北京)



10.25/ 黒龍江省第三回中学生日本語スピーチコンテスト(哈尔滨)

10.28/ “周恩来与日本”研讨会(东京)



10.29/ 成都铁路卫生学校中日青少年交流会(成都)



10.31/ 广东省高职院校日语专业演讲比赛(佛山)

10.31/ 公開講座「聞くことから話すことへ」(北京)

10.31~11.01/ “文化研究视阈中的日本文学”学术研讨会(北京)



NOVEMBER 11月

11.01/ 北京师范大学日本語教育教学研究所成立大会「日本語専攻教育の授業を考える国際学術フォーラム」(北京)

11.01~04/ 言论NPO“北京东京论坛”(大连)

11.06~12.10/ 北京日本文化中心初级日语会话体验班(全4回)

11.07/ J-POP in China 2009(北京)

11.07/ 新日本語能力测试说明会(南京)



11.14/ 辽宁省中学日语教师巡回指导(阜新)



11.15~16/ 2009中日动漫交流会(北京)



11.22/ 湖南省日语演讲比赛(长沙)

December 12月

12.02~03/ 空中楼阁-渡边香津美TRIO-北京公演

12.06/ 日本語能力测试



12.06~07/ 遼寧省日本文化活動デイ「大道芸青少年交流」(沈阳)

12.12/ 第5届中国大学日语教育研究国际研讨会(上海)

12.12/ 新JLPT说明会(大连)

12.19/ 日本文化中心系列讲座——环境(一)环境教育

12.23/ 延边中日交流之窗瀋陽總領事講演と日本語教師研修会(延边)

12.26/ 日本文化中心系列讲座——环境(二)气候变化

活动预告 Activities notice

01.07/ 港澳粵日本研究大学联合会粵西分会日语教学研讨会(湛江)

01.09~10/ [中日工业化进程比较]国际研讨会(开封)

01.09~11/ 现代日本文学演讲会(北京, 南京)

01.16/ 日本文化中心系列讲座——环境(三)自然学校和生态旅游

03.11~14/ 2010年春季高中日语教师研修会